

ソウギョの個体数について

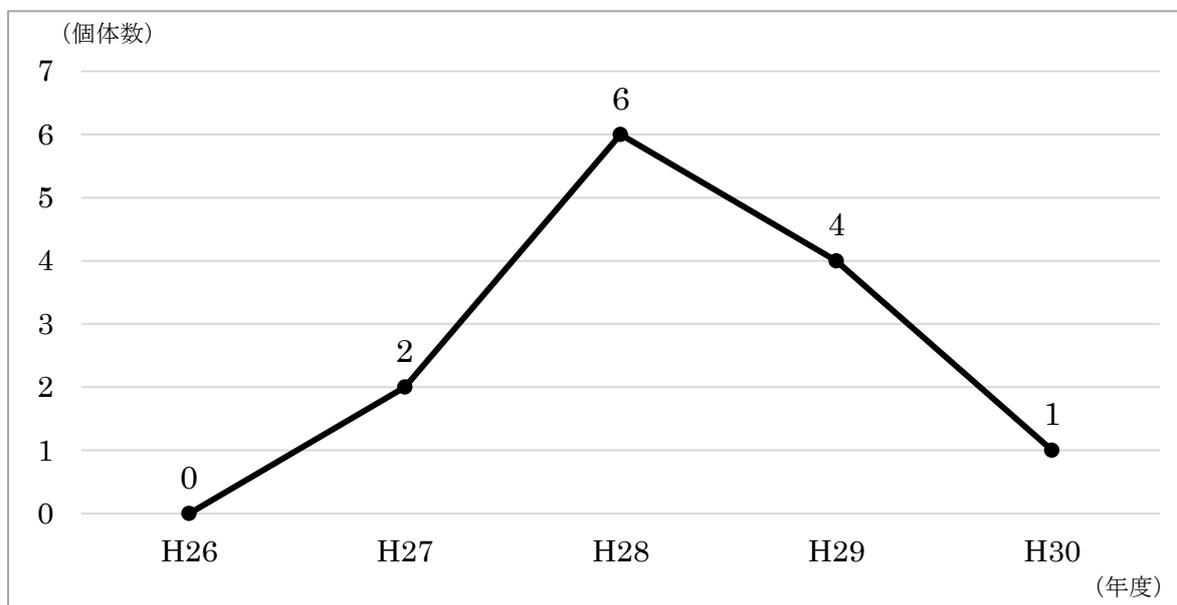
野尻湖では 1970 年代に水草が著しく増え、船の航行や漁業の障害となっていたことから、1978 年に水草除去を目的として草食性のソウギョの稚魚 5,000 匹が放流され、その結果、数年で湖内の水草が食べ尽くされ喪失した。

1988 年に野尻湖で淡水赤潮が発生し、その原因のひとつとして水草帯の欠如による生態系の単純化が指摘されたことから、水草帯復活のための取組が現在まで続いている。

この取組の一環としてソウギョの駆除が行われており、平成 20 年～21 年の実態調査を契機に、釣り人からの情報を把握してデータを蓄積する方法が確立され、現在は釣り上げたソウギョ 1 匹に対し野尻湖漁業協同組合から 1 万円の懸賞金が贈与されている。

当初は、年数匹前後のソウギョが捕獲されており、第 5 期野尻湖水質保全計画の計画期間（平成 26 年から 30 年）におけるソウギョの捕獲個体数は以下のとおりである（令和元年度は現時点でソウギョの捕獲はなし）。

現在、ソウギョの個体数に関する知見はないものの、野尻湖内でソウギョの再生産は行われていないと考えられること、平成 30 年度から沿岸帯で水草の生育が確認され、令和元年には沈水・浮葉植物を中心とした水草の大きな群落が沿岸帯に形成されるようになってきていることなどから、ソウギョの個体数は著しく減少したと考えられる。



提供：野尻湖漁業協同組合・野尻湖ナウマンゾウ博物館資料